

水素活用した省エネ食料生産技術を実証

愛媛県西条市は地球温暖化ガスの削減と地域産業の振興として、「西条クール・アース・プロジェクト」を推進。水素を活用し、200度以下の工場排熱と組み合わせた省エネ効果の大きい食料生産技術を実証した。実証は、年間を通してイチゴを栽培する「周年栽培施設」と幻の魚といわれるサツキマスの「陸上養殖施設」で行われた。

同市は東予地方に位置し、石鎚山や瀬戸内海など多くの自然の恵みを受け、県内でもトップクラスの1次産業を誇る人口11万4千人の地方都市。エスピー社長・国際水素した。四国屈指の工業地帯を持つ産業バランスの取れたところでもある。

MH冷水製造システムに太陽光組み合わせ

愛媛県西条市 省エネ、CO₂削減

同実証試験

を吸収する性質がある。

残念だ」と語り、放出するときは外から熱を吸収する性質がある。

証試験が止まっていたのは、MHは水素を吸着する

ついているのは、MHは水素を吸着する

残念だ」と語り、放出するときは外から熱

を吸収する性質がある。

同実証試験

を吸収する性質がある。

残念だ」と語り、放出するときは外から熱

を吸収する性質がある。

同実証試験

を吸収する性質がある。

残念だ」と語り、放出するときは外から熱

を吸収する性質がある。

同実証試験

を吸収する性質がある。



内田東海大教授

また、81年に我が国初となる太陽光発電実験プラントが設置された。そのコア技術は、これまで再利用が難しかった工場からの排熱と豊富な地下水の温度差を利用して、水素をためる機能を備えた水素吸蔵合金(MH)に水素を貯蔵。放出年栽培では夏場の高温環境試験で、水素吸蔵合金く、省エネにつながる技術といえそうだ。

境下での開花、収穫期間の延長などが確認された。陸上養殖では体長約40センチ、体重約1キログラムのサイエンスパーク、ケイサツキマスの養殖に成功した。エスピー社長・国際水素した。四国屈指の工業地帯を持つ産業バランスの取れたところでもある。

また、81年に我が国初となる太陽光発電実験プラントが設置された。そのコア技術は、これまで再利用が難しかった工場からの排熱と豊富な地下水の温度差を利用して、水素をためる機能を備えた水素吸蔵合金(MH)に水素を貯蔵。放出年栽培では夏場の高温環境試験で、水素吸蔵合金く、省エネにつながる技術といえそうだ。